

中田あみの世界

五年三組

おかむら

ゆな

わたしは「かれしにしたいたい男子No.1決定戦

という本を読みました。この本を選んだのは

この本の帯をみて、おもしろそうだな〜と

思ったからです。

この本は中田あみが主人公の物語です。中

田あみはくじやうりやうにかた想いをい

る高校生です。そして中田あみは、かた想い

しているといことで、こいという体験をしま

す。

わたしがこの本を読んで心に残ったところ

は、中田あみがくじやうりやうと両想いにな

って、つき合いはじめることです。仲がわるか

ったあみとりやうが仲良くなり、最後には、

つき合というラテンかいになるから読んでい

て、楽しくなりました。わたしはこの部分を読

んで、おもしろいな〜と思いました。なぜなら

もしわたしがあみと同じような立場だったら

と考えるのかなしくなったりもするだろうと

思^{おも}うからです。
わたしはこの本から、楽^{たの}しさを、かなしき、な
どいろいろなことを学^{まな}びました。これからも
いろいろな本をよんでいこうと思います。

夏目漱石

5年4組 佐治 てるた

ぼくは「夏目漱石」という本を読みました。この本を選んだのは、ぼくは前から日本一の偉人にすごく興味をもっていたからです。

この本は、夏目漱石の人生を、絵や写真を交えて紹介している伝記です。

夏目漱石は、慶応三年一月五日に江戸に生まれ、その時は「金え助」といって、たそうです。

この年には、幸田露伴、尾崎紅葉、正岡子規

といいた、明治の文豪たちがそろって生まれていきます。漱石の代表作には、「草枕」、「吾輩は猫である」などがあります。

ぼくがこの本を読んで、特に心に残ったのは、漱石の最愛の母が

「えらい人にならなくていいから、正しい心の人になりなさい」。

といて、死んでしまうところですが、ぼくはここで、悲しすぎて、心の中で泣いてしまいました。

ました。

もう一つ心に残ったのは、夏目漱石がまだ学校に通っていたころは、短刀をもつて、かき大将を降参させるほどの、あばれん坊だ、たという事です。この事実には正直いって、ビツワリしました。なぜなら、小説を書く大体の人が、子供の頃から本が好きで、静かな人のイメージがあるからです。小説を書く人にも、いろいろな子供時代があるんだなと思います。いきました。

ぼくはこの本を読んで、有名な人でも、悲しい過去や、ビツワリするような子供時代をすごしているから、人の性格をかくてに決めてしまわないようにしたいと思います。

「五体不満足」を読んで

鈴木 里菜

私は「五体不満足」という本を読みました。この本を選んだのは、この本の作者の乙武洋匡さんのかく本が好きだったからです。

この本は、「乙武洋匡」さんの半生記をえがいた実話です。オトちゃんこと乙武洋匡さんは、手足が生まれつきない人です。そんなしょうがいがあってもふつうの人と変わらぬ

生活を送っていきます。

私が一番おもしろいと思ったのは乙武さんの「お父さん」です。理由は乙武さんがようやくしゃべり出した頃「これは何？これは？」といろいろしゃべらせていた所です。せんだく機はじゃぶじゃぶ。パパのXがネはパパXがと、た具合です。おもしろくて思わず「ニヤニヤしてしまいました。」

私が一番心に残ったのは、乙武さんが20才頃になるまで自分か「しょうがい者」と

いう事に気がつかなかったという事です。私
はこの部分を読んで乙武さんはすごいな。と
思いました。理由は子どもの頃から手足を気
にせずぶっしていたので気づかなかったんた
ろうな。と思いました。私が乙武さんの立場
だったら手足の事を気にして家に閉じこも
てしまいかもしれない。そう思っただけです。
私はこの本から自分に自信を持つという事
を学びました。なので私はもっというりるな
人に読んでもらっていろいろの人に自信を持

ってもらいたいと思いました。そして私も、
もっという自分に自信を持ちたいと思います。